

ワーク・シフト

理化学工業株式会社 小山 典昭

8月の初め、さる IT 関連のセミナーで、TUNAGU パートナーズ代表取締役の相澤 利彦氏による「ワークスタイル変革」というタイトルの基調講演を聞きました。

その講演の中で、ロンドン・ビジネススクール教授であるリンダ・グラットン氏の「ワーク・シフト」という本を知りました。

この本に興味を湧き、蒲田図書館で検索するとすぐにヒットしたので、借りて読んでみることにしました。

本は1か月前に返却してしまっていて、内容は不正確ですが、

- ① 高齢化がますます進み、平均寿命は100歳を超えるようになる
- ② 地球資源はますます減り続け、エネルギー価格は高騰する
- ③ コンピュータと科学技術はますます進歩する

想定される悪いシナリオは下記の②から⑤、

- ① 人々は20歳から80歳まで仕事をするようになる
(そうでないと年金は破綻する)
- ② グローバル化により就職は安い労働力との競争になる
(失業、収入減)
- ③ 知的職業でさえも、その一部はビッグデータやAI活用でコンピュータがとって代わる
(失業、収入減)
- ④ エネルギーコストを抑えるために職場の近くに住むようになる
(家族がバラバラになる、スキンシップが失われる)
- ⑤ ITの進化によりリモートオフィス・リモートオペレーションが加速する
(一日中、切れ目なく仕事が入ってきて疲弊してしまう)

上記の悪いシナリオでは、

- ① 収入が減り貧困に陥る
- ② 孤独でさみしい老後を送る

そうならないために、著者は、下記を提案しています。

- ① 専門能力を身に付け続ける

(能力習得 → 能力活用 → 新たな能力習得(充電) → 能力活用 → …)

- ② リッチな生活に固執せず、そこそこの収入で心の豊かさを重視した生活を送る
- ③ 豊かな人間関係を構築する

上記で、③の「豊かな人間関係」は、さらに、3種類に分けられます。

- ① 家族
- ② 何でも相談できる社外や地域のごく親しい友人
- ③ ソーシャルネットワークなど、ネットを介した専門性の高いコミュニティ

私は、今年の2月、ひょんなことがきっかけで、大田区異業種企業交流会に興味を持ち、4月から Joint-92 に参加することになりました。

Joint-92 を中心に、大田区異業種企業交流会や大田区産業振興協会との交流を通じて、会社関係以外のいろいろな人達と親睦を深めつつあります。

これはまさに、リンダ・グラットン氏がいうところの「豊かな人間関係」ではないかと、本を読みながら思いました。

従って、これからもこのつながりを大切にしていきたいと考えています。

2015年8月末日

<参考>

ワーク・シフト ― 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図 (2025) 2012/7/28

リンダ・グラットン (著), 池村 千秋 (翻訳)

プレジデント社